日本電動式遊技機工業協同組合

小林友也 理事長

「BT機を2年で10%に」

6月13日に開催された日電協の通常総会で理事長に再任された小林友也氏。総会では2期目となる今後2年で、ボーナストリガー（BT）タイプのパチスロをパチスロ市場の10%まで普及させることを目標に掲げた。業界誌との会見でその真意を語った。（文中敬称略）

――理事長として2期目を迎えました。どんな心境ですか？

小林　振り返れば、7年前の規則改正で出玉が総じて、3分の2に抑えられ、今後のパチスロに対して皆さまには大変ご心配をおかけしましたが、前理事長の兼次相談役が奔走し、6.5号機、そしてスマスロを開発できる環境を整えていただけた。おかげさまで現在、スマスロAT機の設置シェアは約51%。ホール様、ユーザーの皆さまから評価を得ることができ、一つの柱として成長を続けています。

――1期目に力を入れてきたことは？

小林　スマスロAT機の市場投入後、パチスロ市場は活気を取り戻しました。一方でAT機はお金がかかり、遊技性が複雑という声が一定数聞こえてきます。そのようなユーザーの受け皿となるパチスロとしてノーマルタイプがありますが、ノーマルタイプは規則改正後、出玉が3分の2になったこともあり、出玉感では物足りないという声もありました。そのような状況の中、就任1期目の私は、更なる柱を立てるためにノーマルタイプの拡充の検討を開始しました。5号機ではビッグボーナスの獲得枚数は480枚、純増枚数でいうと400枚程度が獲得できましたが、6号機となり、獲得枚数300枚、純増枚数で250枚程度となってしまいました。ここから、どうにか、5号機並みにまとまった出玉が獲得できる性能が実現できないかと考えました。

――規則上、難しい課題では？

小林　ビッグボーナスの獲得枚数は遊技機規則で定められていますので、単純に増やすとなると規則改正が必要になります。しかし遊技機規則の改正となると相当な時間がかかると思いましたので、当時の警察庁の保安課長に相談したところ、規則の範囲であれば検討できるとの話を受けました。その後、行政の技術担当者と何度も相談をさせていただき、遊技機規則は改正せず、技術上の規格解釈基準の改正により、初期化時とボーナス終了時に規定数を固定することで、ボーナスの確率を複数持つことが可能となり、ボーナスが連続する性能によるまとまった出玉を実現することができました。昨年8月に技術上の規格解釈基準が改正され、9月から型式試験申請を開始し、今年の6月にBT機第一弾となる5機種を無事にリリースすることができました。

――2期目の抱負は？

小林　第3のパチスロであるBT機の市場設置シェア10%を目指す「BT10」です。総会ではこれを宣言しました。BT機は現状のパチスロでは満足できなかった離脱者や、新規ユーザーの受け皿となり、BT機の普及がパチスロユーザーの増加に繋がり、業界が活性化すると考えているためです。

――6月からBT機第一弾の5機種が稼働し始めました。初動をどう見ていますか。

小林　BT機を販売した組合員と意見交換をしたところ、BT10を達成するための課題が3つ見えてきました。一つ目は、「ホール様へのBT機の訴求不足」です。BT機は、AT機とノーマルタイプの中間地点の遊技性、射幸性を目指しています。一方、先行したメーカーがホール様の意見を伺ったところ、BTをぱちんこの確変のようなイメージで捉えていたようで、射幸性の部分で購入を控えたところもあったそうです。業界の将来を見据えた場合、多様なユーザーのニーズに応えるためにBT機は必要です。ユーザーの離脱を防ぎ、新規ユーザーの獲得にもつながることを、今後はホール様に積極的に伝えていきたいと考えています。

二つ目は、「ホール様におけるBT機のオペレーション」です。先行5機種のデータを見ると、低い設定を使っているのではないかと類推されます。出玉の波が比較的緩いノーマルタイプは、ユーザーを引き留めるために設定のオペレーションが大切です。AT機の前の時代には、新規導入されたパチスロ機は、メーカーがホールに張り付き、ホール様との信頼関係の中で設定のオペレーションを一緒にやってきました。BT機を成功させるためには、各メーカーがホール様との信頼関係をより一層築き上げることが必要です。私もBT機導入店をまわりましたが、ホールの中のどこにBT機が設置されているか、歩き回ってもなかなか探せませんでした。このことを解消するため、今後BT機を販売するメーカーには、組合がBT機のPOPを提供しようと思っています。

三つ目は、「BT機のコーナー化の推進」です。BT機は新しいカテゴリのパチスロなので、ホール様も様子見の中、少台数の設置となる傾向があります。BT機を生かすためには、バラエティコーナに埋もれさせてはいけません。ましてやAT機に挟まれるように設置をされてはBT機が死んでしまいます。これも先ほどと同じように、各メーカーがホール様との信頼関係を一層築き、ホール様に提案をしていく必要があると思います。

BT機は現状、1機種で大量に販売できる機械とは考えていません。だからと言って各メーカ
しまっては「BT10
これについては、B
促し続け、より良い
るよう遊技性の向上
ならないと思って
目の抱負は、BT機
の柱、第三のパチス
せることであり、必
現させていきたい

続きはデジタルブックでご覧いただけます。
詳細はこちら

BT機の普及でファン拡大へ

日電協は6月13日、パレスホテル東京で通常総会を開催。役員選任で小林友也理事長を再任した。今期事業方針としてボーナストリガー搭載機について、2年後にパチスロ設置台数のシェア10%を目指すことなどを決議した。今期の日電協の役員は以下の通り。

新役員（敬称略）

理事長	小林友也（再任）	理事	宮良幹男（再任）
副理事長	里見治紀（再任）	理事	正岡伸朗（再任）
副理事長	大泉秀治（再任）	理事	佐野詳一（再任）
副理事長	信田裕一郎（再任）	理事	湯澤　哲（再任）
専務理事	上野正史（員外・新任）		栢森秀行（再任）
常務理事	岩堀和男（員外・再任）	相談役	里見　治
理事	沖田勝典（再任）	相談役	佐野慎一
		相談役	兼次民喜